

令和3年度 事業報告 (公益社団法人日本近代五種協会)

2022 令和4年6月4日

令和3年度、新型コロナウイルスのまん延が続くなか、1年延期された2020東京オリンピックが多くの制限はあったが開催され、初めてのワンスタジアムの大会が無事に実施されたことは、ひとえに協会スタッフ、関係各位の甚大なる協力によるものであった。昨年度同様、事業計画の多くが中止、変更となる中、本協会としてできる限りの諸事業を次のように実施した。本協会の社会的役割を深く認識し、競技の振興と普及を目指し国内外の情報を分析して競技の発展に努めると共に、上部団体、加盟団体、並びに関係機関や団体との連携を強化し、諸事業を行った。新型コロナの関係で実施できなかった合宿、大会等が、夏以降で規制を順守しつつ実施することができた。

1. 我が国の近代五種競技に係る競技力の向上に関すること。

① 国際大会派遣

(1) ワールドカップシリーズに選手団を派遣した。

ア ワールドカップ 1ブルガリア大会(ソフィア)

・2021年4月6日－4月11日:選手7名・スタッフ8名

イ ワールドカップ 2ブルガリア大会(ソフィア)

・2021年4月12日－4月18日:選手7名・スタッフ8名

ウ ワールドカップファイナル大会(ハンガリー国・セーゲシュフェヘールヴァール市)

・2021年5月9日－5月16日:選手1名・スタッフ2名

エ ワールドカップ エジプト大会(カイロ)

・2022年3月22日－3月27日:選手4名・スタッフ5名

(2) シニア世界選手権大会(エジプト国カイロ市)に選手団を派遣した。

・2021年6月6日－6月15日:選手6名・スタッフ6名

(3) 東京2020夏季オリンピック競技会に選手団を派遣した。

・2021年7月30日－8月9日:選手3名・スタッフ5名

② 国内強化合宿

(1) JOC 選手強化事業および次世代アスリート育成強化事業

ア 2021年7月10日－7月18日ジュニア・ユース国内合宿@千葉県

(選手6名・スタッフ5名)

イ 2022年1月18日－1月23日 ジュニア・ユース拠点合宿①(選手4名・スタッフ3名)

ウ 2022年2月5日－2月10日 ジュニア・ユース拠点合宿② (選手6名・スタッフ3名)

エ 2022年3月4日－3月10日 ジュニア・ユース拠点合宿③ (選手6名・スタッフ4名)

オ 2022年3月15日－3月28日 ジュニア・ユース拠点合宿④ (選手1名・スタッフ1名)

カ 3種競技の次世代選手合宿を年3回実施した

(2) JRA 助成事業

シニア3回、ジュニア・ユース3回の馬術強化合宿を実施した。

ア 2021年4月1日－4月6日 JRAシニア1次合宿@ブルガリア

(選手7名・スタッフ8名)

イ 2021年10月2日－10月9日 JRAジュニア・ユース1次合宿@千葉県

(選手5名・スタッフ3名)

ウ 2021年11月25日－11月30日 JRAシニア2次合宿@千葉県

(選手8名・スタッフ3名)

エ 2021年11月28日－12月5日 JRAジュニア・ユース2次合宿@千葉県

(選手7名・スタッフ3名)

オ 2021年12月7日－12月15日 JRAシニア3次合宿@栃木県

(選手 10 名・スタッフ 9 名)

カ 2021 年 12 月 23 日－12 月 28 日 JRA ジュニア・ユース 2 次合宿@栃木県

(選手 7 名・スタッフ 4 名)

キ 3 種競技の JRA 次世代選手合宿を年 7 回実施した

③ 日韓交流事業

韓国との交流事業は中止となった。

2. 近代五種競技の普及に関すること。

a) 近代 3 種大会及びレーザーラン大会として、立川大会を開催した。

また各所において「射撃、フェンシング、馬術」の体験教室を実施した。

b) 協会ホームページの充実をはかり、広く会員を募集するとともに企業と連携した普及活動を実施した。

3. 近代五種競技に係る競技大会に関すること。

a) 第 61 回全日本選手権大会（令和 3 年 11 月 11 日～14 日）を開催した。

コロナ感染防止策を徹底し、大会は栃木県宇都宮市近郊において無観客で開催した。

b) 第 9 回近代 3 種日本選手権大会兼第 16 回 JOC ジュニアオリンピックカップ（令和 3 年 11 月 6, 7 日）を開催した。

c) 記録会は 1 回開催できたが、ランキング戦は開催できなかった。

4. 公益財団法人日本オリンピック委員会及び公益財団法人日本スポーツ協会への加盟に関すること。

a) 評議員会、総会に出席した。

b) スポーツ指導者育成に関する会議に出席した。

c) 情報システムに関する会議に出席した。

d) 競技力強化に関する連絡会議等に出席した。

e) その他運営に関する協力を全面的に行った。

5. 近代五種競技に係る国際的な団体への加盟に関すること。

a) アジア近代五種連合（AMPC）に関するコンGRESは Web 会議で出席した。

b) 国際近代五種連合（UIPM）に関するコンGRESは Web 会議で出席した。

6. 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するための必要な事業に関すること。

a) アンチ・ドーピング活動としてサプリメントの使用についての指導講習会、ドーピング検査を実施した。

b) 2020 東京オリンピック競技大会のため、審判員の技能維持に必要な事業を推進した。

c) 国際大会運営に関する知識等を習得するため派遣は中止したが、UIPM の各種資料を活用しての知識技能の習得を推進した。

d) 2020 東京オリンピック競技大会の準備及び開催を全面的に協力した。

e) 財政基盤確立の為、協賛企業と契約をした。

f) 新型コロナウイルス感染防止ガイドラインを作成し予防に努めた。

以上